

令和2年度 大田区立大森第一小学校

学力向上のための授業改善プラン

大田区教育委員会では、学習内容の定着状況を把握し、授業改善を図ることで、児童・生徒に「確かな学力」を身に付けさせるため、「大田区学習効果測定」を実施しています。小学校では、4・5・6年生について、国語・社会・算数・理科の調査を行いました。本校ではこの調査の結果や、普段の児童の様子をもとに、授業改善プランを作成しました。

□全体計画

調査の結果と結果からの改善策

□4年

□5年

□6年

児童の様子からの改善策

□1年

□2年

□3年

□体育

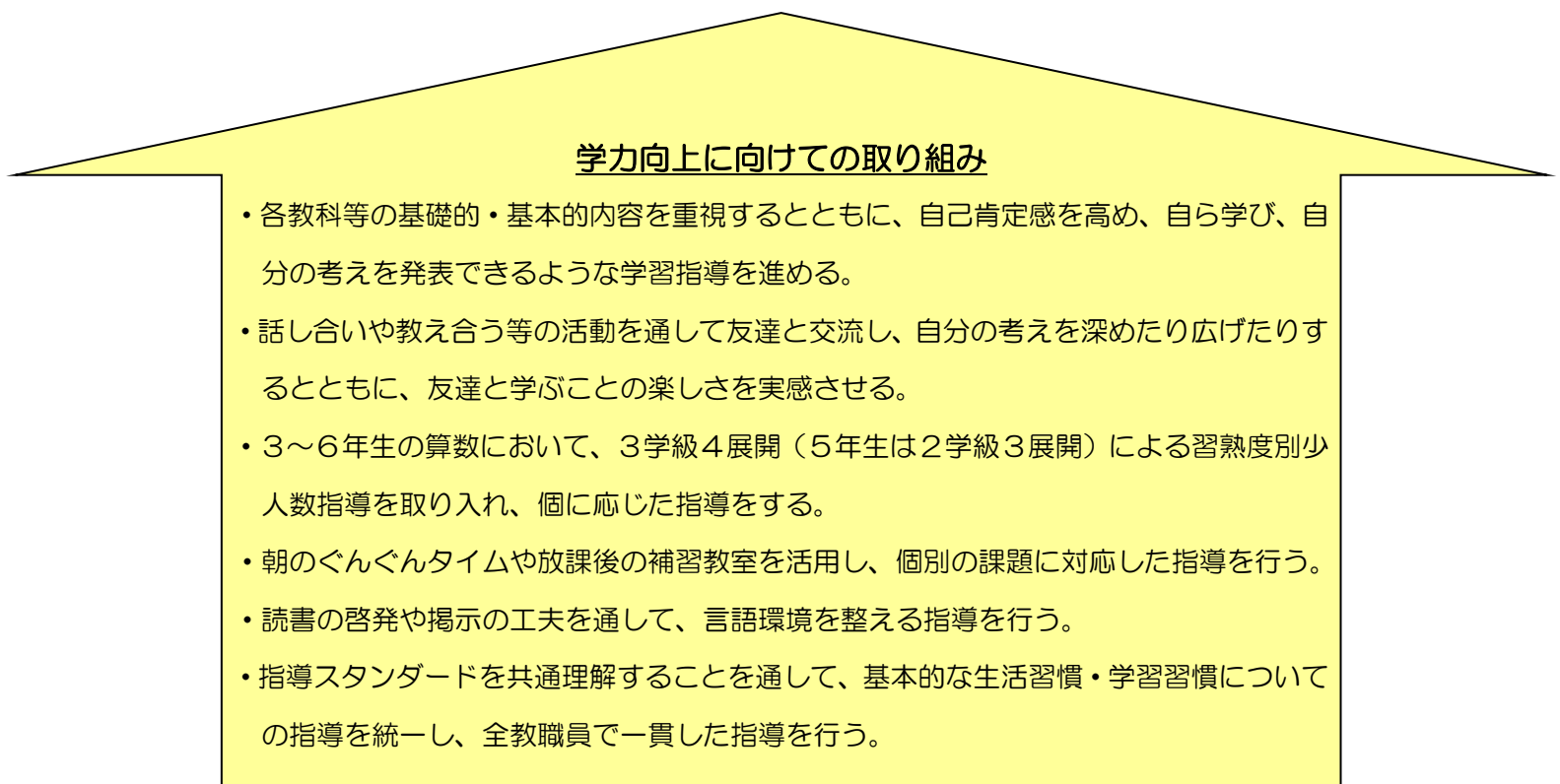
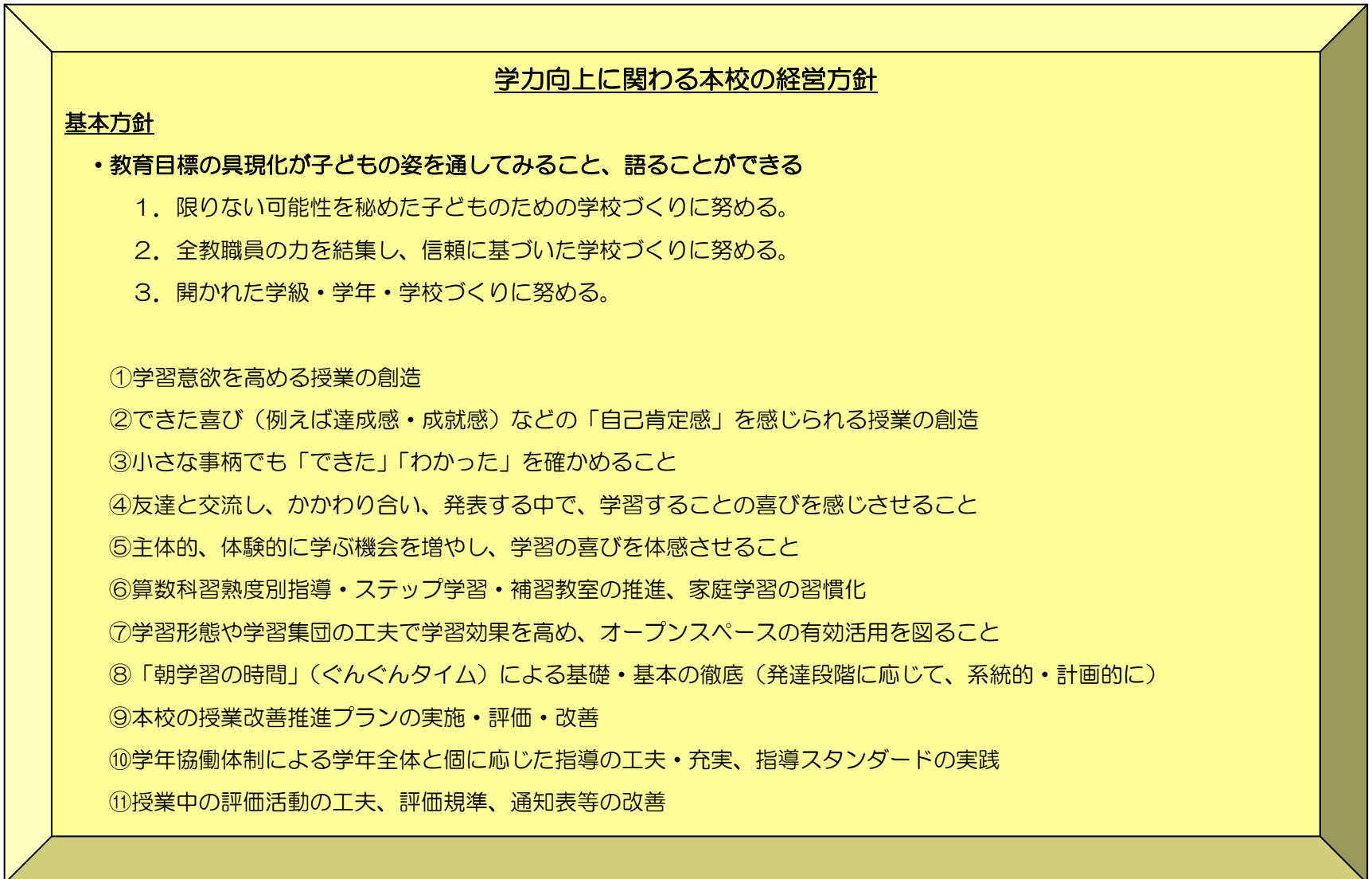
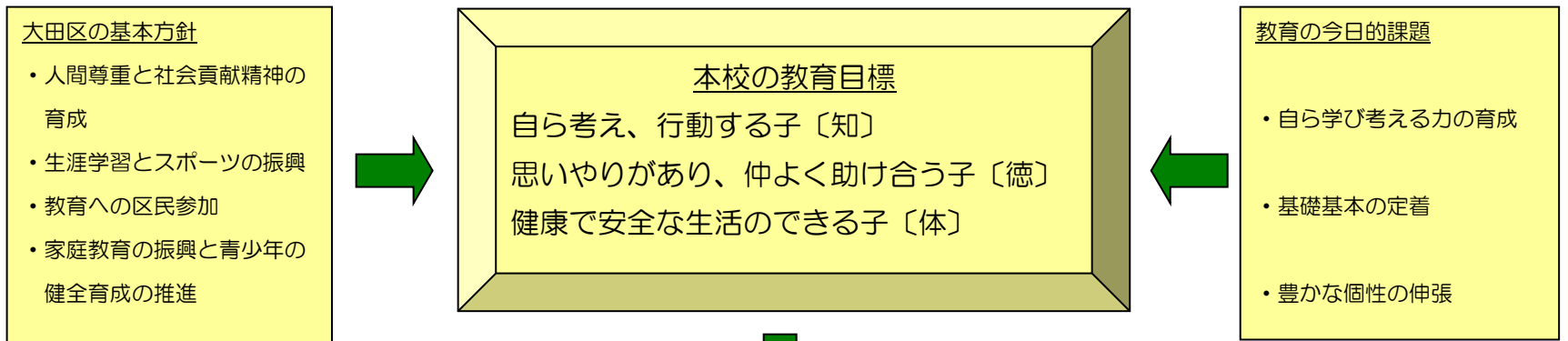
□音楽

□図工

□家庭



全体計画



大田区学習効果測定 調査結果と結果からの改善策

4年生

昨年度授業改善プランについての成果と課題

国語→読書タイムや国語の時間を通して、文章を読む習慣を身に付けさせることができました。今後は、考えを書いて表現する力の伸長を図ります。

社会→自らの生活経験や調査活動を通して、地域を題材とした学習に取り組むことができました。今後は、必要な情報を収集する力や情報をまとめる力の伸長を図ります。

算数→ぐんぐんタイムや少人数での算数授業を通して、一人一人が分かる授業を目指しました。個別の支援体制の更なる充実を図ります。

理科→事象に対して観察・実験を行い記録することができました。今後は、知識・技能の定着や、観察・実験の結果からわかることを明確にすることなど、理解をより確かなものにするのが課題です。

I 調査結果の概要

△：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点

≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点

▽：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語					社会				算数				理科			
全体	≡					≡				≡				≡			
観点別	≡	≡	△	≡	≡	▽	≡	≡	≡	△	△	≡	≡	≡	≡	≡	≡
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解	関心・意欲・態度	思考・判断	観察・資料活用の技能・表現	知識・理解	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	知識・理解	関心・意欲・態度	科学的思考	観察・実験の技能・表現	知識・理解

1 教科全体

各教科ともに目標値とほぼ同程度の結果でした。国語、算数、理科の正答率は昨年度より上回りました。社会の正答率は昨年を下回りました。

2 観点別

各教科の設問を、教科ごとに4~5つの観点に分けて集計した結果です。国語は「書く能力」が、算数は「関心・意欲・態度」と「数学的な考え方」が目標値を上回り、他は概ね同程度の結果でした。社会は、「関心・意欲・態度」のみ下回る結果でした。

II 教科ごとの授業改善プラン

〔国語〕

- ・「国語辞典の使い方」、「漢字を書く」、「登場人物の気持ちを読み取る」内容に関する問題につまずきが多く見られました。
- ・分からない言葉があった時や新しい言葉に出会った時に辞書を引くことを通して語彙を増やします。
- ・既習の漢字を書く習慣を身に付けられるよう指導します。また、新出漢字学習の際には、漢字の成り立ち等を指導することで漢字習得の定着を図ります。
- ・物語文では、描写に着目することで登場人物の気持ちを想像したり主題に迫ったりする学習を充実します。



〔社会〕

- ・「地図記号や八方位」、「安全な暮らし」の内容に関するつまずきが見られました。
- ・社会科資料や地図帳を意図的・計画的に使い、必要な情報を収集する力の伸長を図ります。
- ・身近な事象から問題を見出し、生活と関連づけて学習を進めることを継続して行います。



〔算数〕

- ・「かけ算」、「大きい数・分数・小数」の内容に関するつまずきが多く見られました。
- ・習熟度別学習を推進し、個に応じた課題に取り組みます。大田区ステップ学習のプリントを活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。

〔理科〕

- ・「光」、「磁石」、「物の重さ」の内容に関するつまずきが多く見られました。
- ・実験や観察をする時の観点を明確にし、予想を立て実験の結果から得られる考察について、話し合いながら思考を深めます。
- ・より確かな知識・技能の定着のために、分かったことを図や言葉で書いて表現させます。



5年生

昨年度授業改善プランについての成果と課題

国語→「書く」「読む」の2観点で目標値を上回りました。話す・聞く能力、言語力を身に付けることが課題としてあげられます。
 社会→全体的に目標値と同等の力がついてきています。児童の興味・関心を喚起する資料や動画を導入に用いて、学習を進めます。
 算数→「数学的な考え方」において目標を上回りました。知識・理解には、ばらつきが見られるため、習熟度別指導を継続することで、基礎・基本のさらなる定着を図ります。
 理科→目標値を大きく下回っています。観察・実験の技能や表現の力を高めるために、「問題→予想→実験・観察→結果→考察」という過程を通して学習を進めます。実体験をさらに積み重ねて、豊かな知識や深い理解へとつなげていきます。

I 調査結果の概要

△：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点

≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点

▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語					社会				算数				理科			
全体	≡					≡				≡				▼			
観点別	≡	△	≡	△	≡	≡	≡	△	△	▼	≡	≡	▼	▼	▼	▼	▼
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解	関心・意欲・態度	思考・判断	観察・資料活用の技能・表現	知識・理解	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	知識・理解	関心・意欲・態度	科学的思考	観察・実験の技能・表現	知識・理解

1 教科全体

昨年度（4年）との経年比較では、国語・社会で成長が見られます。算数は、「関心・意欲・態度」、「知識・理解」に課題がありますが、その他の観点は目標値とほぼ同等です。理科は、全ての観面で目標値を下回り、重点的に学力向上のための手立てを講じる必要があります。

2 観点別

各教科の設問を、教科ごとに4~5つの観点に分けて集計した結果です。

理科は「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的思考」「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」の4観面で目標値を下回りました。



II 教科ごとの授業改善プラン

〔国語〕

- ・区の教材を活用し、段落や要点を考えながら、分かりやすい文章を書く力を身に付けます。
- ・学習した新出漢字や熟語などを、日常のノートや作文で進んで活用することを通して、確かな知識として定着するようにしていきます。

〔社会〕

- ・デジタル教科書などの画像や動画を導入で活用することで、関心・意欲を高めるようにします。
- ・教科書や地図帳、資料集を意図的・計画的に活用し、グラフや図表、写真資料から読み取れることを分析したり、自分なりの表現でまとめたりできるようにします。

〔算数〕

- ・教材や問題を工夫し、児童が興味・関心をもって取り組めるようにします。
- ・習熟度別指導や補助教材を活用し、基礎・基本となる学力の定着をさせます。
- ・線分図や数直線などを使い、わかっている条件や求める答えについて整理することや図形などを書く際、かきかたを一つ一つ確認しながら、正しく表現できるようにします。

〔理科〕

- ・単元全体、1時間ごとの学習課題を明確にすることで、児童が実験・観察の「必要性」「有用性」を感じられるようにしていきます。
- ・少人数グループや個人での活動を多く取り入れ、個々の児童ができるだけ実感をもって学習に参加できるようにします。
- ・単元の終末で学習内容を整理し振り返る時間を設定し、学んだことを確実に知識として身に付けられるように指導していきます。

昨年度授業改善プランについての成果と課題

国語→全ての観点で目標値を上回りました。昨年度の結果から課題としてあげられていた「話す・聞く能力」については、意図的・計画的に、自分の思いや考えを表現し合う場を設定したことで、力を付けてきていることが明らかとなりました。物語文や説明文の内容を読み取る力の向上が、今後の課題だと考えています。

社会→特に「社会的事象についての知識・理解」「関心・態度」で目標値を下回っています。ICT機器を用いて画像や動画を活用する等、児童の興味・関心を高めるとともに、社会的・歴史的な事象がイメージしやすいような授業づくりに取り組んでいきます。暗記に止まらない、調べたり学んだりしたことから、自分なりに考える学習活動を行います。

算数→「数量や図形についての知識・理解」において目標を大きく上回っています。他の観点についても概ね目標値を上回っていますが、「関心・意欲・態度」では低い値が見られるため、教材や問題を工夫し、児童が興味・関心をもって取り組めるようにします。

理科→全体的に目標値をやや下回っています。観察・実験の技能や表現の力を高めるために、「問題→予想→実験・観察→結果→考察」という過程を通して学習を進めます。科学的な事象を日常生活と関連付けさせ、基礎的な知識・理解の定着を図ります。

I 調査結果の概要

- △：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点
- ≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点
- ▽：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国 語					社 会				算 数				理 科				
全体	≡					≡				≡				≡				
観点別	△	△	△	≡	△	▽	≡	≡	▽	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	▽	≡
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解	関心・意欲・態度	思考・判断	観察・資料活用の技能・表現	知識・理解	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	知識・理解	関心・意欲・態度	科学的思考	観察・実験の技能・表現	知識・理解	

1 教科全体

昨年度（5年）との経年比較では、算数・理科で成長が見られます。算数は、観点によって課題がありますが、目標値とほぼ同等です。社会の手立てを講じる必要があります。教科全体としては、目標値に至らない教科がありました。国語は、目標値を上回り、基礎的・基本的な内容が身に付いてきていると考えられます。

2 観点別

各教科の設問を、教科ごとに4～5つの観点に分けて集計した結果です。

国語では「関心・意欲・態度」「話す・聞く力」「書く力」「言語についての知識・理解・技能」の4観点で目標値を上回りました。算数では、「数量や図形についての知識・理解」で目標値に達したものの、特に「関心・意欲・態度」では、目標値を下回りました。また、社会・理科の2教科については、教科全体で目標値を下回る傾向が見られ、今後の重点課題として指導の改善に取り組んでいく必要があると考えます。



II 教科ごとの授業改善プラン

〔国語〕

- ・言動や心情を表す複数の表現から人物像を想像させ、様々な表現の工夫に着目して読む力を身に付けます。
- ・読んで感想を伝え合い、互いの感じ方の違いを明らかにすることで新たなものの見方や考え方に出会える場を設定します。

〔社会〕

- ・デジタル教科書などの画像や動画を活用することで、関心・意欲を高めるようにします。
- ・「つかむ」「調べる」「まとめる」「ふかめる」という問題解決的な学習方法により、具体的知識を確実に習得させます。
- ・資料集などの補助教材を使用する中で、必要な情報を集め、適切に活用できるように指導します。

〔算数〕

- ・大田区ステップ学習、補習教室、家庭学習、学習カルテを活用し学習内容の確実な定着を目指します。
- ・一人一人に応じた習熟度別編成を行うことで、進んで学習に取り組める環境づくりを行います。

〔理科〕

- ・「問題→予想・仮説→実験・観察→結果→考察→新たな問題」という学習過程を通して、自分なりに考えをもち、確かめ、自力解決する力の育成を目指します。
- ・単元の終末で学習内容を整理し振り返る時間を設定し、学んだことを確実に知識として身に付けられるように指導していきます。
- ・ICTの活用することで、観察・実験におけるポイントについての理解を深めます。

児童の様子からの改善策

1年生

入学してから1学期の成果と課題

一斉指導のもと、話を聞いて課題を理解して行動につなげる力、自分で判断する力が身に付いてきています。平仮名の学習を一文字ずつ音読と合わせて進め、丁寧に書いたり、はっきりと読んだりすることができる児童が増えました。したことややってみた感想を3つ以上の文で書くことは、ほぼ全員ができるようになりましたが、苦手意識をもっている児童もあり、個別支援を続けています。10までの数の合成分解を具体物の操作なしで思考できる児童も増えましたが、数の処理に時間を要する児童もいます。成果につながる繰り返しの練習が必要です。

国語

学年の実態

物語を読むことを楽しみ、意欲的に授業へ参加しています。音読の宿題に毎日取り組むことで、言葉のまとまりを捉え、声の大きさや速さに気を付けて音読できるようになってきました。平仮名を正しく読み書きできる児童がほとんどですが、書き順・拗音・促音などを含む単語や助詞「は・へ・を」を正しく表記することが難しい児童もいます。叙述から場面や登場人物の様子を正確に読むこと、主語と述語の関係を意識して文を書くことが今後の課題です。

改善策

仮名遣い、拗音・促音の課題については、朝のぐんぐんタイムや宿題で継続して指導を続け、正しく読み書きができるようにしていきます。物語文や説明文を読み、内容について話し合ったり、場面と場面のつながりを考えたりして、読むことを楽しみながら正確に読む力を身に付けていきます。



1年生は発表にも意欲的です。友達の話を最後まで聞く態度も大切にしています。

算数

学年の実態

1～20までの数を正確に数え、繰り上がりのない足し算・繰り下がりのない引き算を正確に計算できる児童が多くなりました。算数ブロックを用いたり指を使って答えを確かめたりする児童もいます。問題文を読み取り、具体的に場面をイメージして立式することは個人差があります。

改善策

計算ドリルやたしかめプリントなどの活用と宿題で繰り返し計算練習を行い、正確さ、速さを身に付けさせています。具体物や半具体物、図絵など、発達の段階に即して教材教具を工夫し、体験的な活動を重視しながら学習を進めることで、計算の意味を考えるようにしています。



生活

学年の実態

「見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶ」の活動を楽しんでいます。自分の思いや願いをもって、活動する児童がほとんどです。アサガオの水やりを欠かさずに続け、生長にともない変化していく様子を楽しみにしながら、親しみをもって世話をする姿が見られました。全体的に生き物への興味関心が高く、ダンゴムシやカブトムシの幼虫、バッタ、サリガニなどを各学級で育てています。学級で親しみをもって育てていることで、生き物への苦手意識が減り、生き物を触れるようになった児童も増えました。学校探検から、先生や上級生など学校の人々に強い関心をもちました。2年生と一緒に生活科見学へ行ったことで、身近な人々とのさらなる関わりを求めています。

体験活動を多く取り入れて、発見や驚きから、学習が進んでいくよう工夫しています。



改善策

活動したことや体験したことを絵や言葉(文章)で振り返らせ、気づきを明確にしていきます。児童の気づきを大切に、個々の気づきを全体で交流することで、活動を深めたり広げたりしていきます。

2年生

昨年度改善プラン成果と課題

基礎・基本の継続的な取り組みにより、文章をはっきりと音読すること、字形の整った字を書くこと、繰り上がり・繰り下がりのある計算で10のまとまりを抽象的な操作で行い計算することができる児童が多くいます。異学年での交流やアサガオの栽培など直接経験を通じて、学ぶことの楽しさを感じ、人との関わりや自然に関心が高まっています。

基礎・基本が十分でない児童や人と積極的に関わることや生き物に苦手意識をもっている児童もいるため、昨年度の取り組みを継続します。基礎・基本を活かして、自分の考えを表現したり、友達の意見を聞いて自分の考えを更新したりする学習の積み重ねをして、思考力や表現力についても伸ばしていきます。

国語

学年の実態

音読は多くの児童が、はっきりと大きな声で読むことができます。登場人物の心情の変化に関しては、経験的に感じとることはできていますが、叙述を根拠にした理由を説明することは、十分ではありません。自分の考えや気持ちを伝える意欲はありますが、文章の構成を考えて書くことはこれからの指導が必要です。形の整った文字を書く児童が多くいますが、日常生活に習得した漢字を活かして書くことやカタカナ表記の理解は繰り返し意識させる必要があります。

改善策

物語の読解に関しては、場面の様子や登場人物の心情の変化について、叙述を根拠にして考え、互いに交流し、捉え方の違いを認めつつ深めていきます。説明文の読解では、文章の構成（始め・中・終わり）を意識して、書かれていることを正しく読み取る力を養うと共に、自分の作文にも活かします。作文は下書きや推敲の時間をとり、文章に間違いや漢字で書ける部分がないか確認するようにします。



左は、「たんぼぼのちえ」の構成を順序を表す言葉に着目して確かめています。作文を書くときにも接続語を使うよう指導しています。右は、「スイミー」音読発表の様子です。場面の様子を想像して音読練習の成果を劇やペープサートで交流しました。思考力・表現力を育てていきます。

算数

学年の実態

基本的なたし算・ひき算の計算処理は多くの児童が習得できています。数を位ごとのまとまりとして算数的にとらえることや、長さや時刻と時間などの計測については、難しく感じる児童が多くいます。日常の現象を算数で学んだことと結びつけてとらえる経験は少なく、文章だけでは状況を正しく想像できない児童がいます。

改善策

授業では、日常の現象を算数的に読み取ることを授業の導入や終末で意識的に行い、児童の生活と算数で学んだことをつなぎ、算数を学ぶ意味を感じさせていきます。問題作りを通して、文章題の場面を想像できるようにします。計測に関して、経験が不足していることから、生活科など他教科・領域で算数の技能として用い、確実な習得を図っていきます。



算数で水のかさの学習で、デシリットル升やリットル升を使って、実際に容器のかさを量っているところです。かさや長さの学習では、計測を繰り返し経験することで、体感を養います。

生活

学年の実態

人と関わることや自然に積極的に関わる児童も多くいる一方、苦手な児童もいます。オタマジャクシやカブトムシの飼育や野菜の栽培、梅ジュースや味噌づくりを通じて、自然体験をさせ、興味・関心を示す児童は増えてきています。1年生とは、町探検の報告会やドングリ拾いを通じて、交流しています。

改善策

自分たちの町探検や自然体験を1年生に伝えることや一緒に活動することを通じて人との関わりを深めていきます。3学期に生活科を中心としてこれまでの経験を振り返り、自分の成長を自覚し、学びに向かう力を涵養することをねらいとします。



左は、町探検で見つけたことをパンフレットや本にまとめて、紹介し合っている様子です。学級、学年で交流した後、1年生の「お相手さん」に知らせました。右は、冬野菜の種まきをしている様子です。ベランダの花壇で栽培活動を継続しています。

3年生

昨年度改善プラン成果と課題

基礎・基本の継続的な取組により、文章をはっきりと音読すること、字形の整った字を書くこと、繰り上がり・繰り下がりのある計算で10のまとまりを抽象的な操作で行い、計算することができる子どもが多くいます。友達との交流や、生き物の観察や飼育、栽培などの直接経験を通じて、学ぶことの楽しさを感じ、人との関わりや自然に関心が高まっています。

身に付いた基礎・基本を生かし、自分の考えを表現したり、友達の意見を聞いて自分の考えを更新したりすることを通じて、思考力や表現力を伸ばしていきます。

国語

学年の実態

多くの児童が、自分の考えや気持ちを伝える意欲がありますが、文章の構成を考えて表現することは今後の課題です。字形を整えて文字を書くことができる児童が多いですが、習得した漢字を日常生活に生かして書くことには課題があります。

改善策

物語の読解に関しては、物語の構成（始め・中・終わり）を意識して登場人物の心情の変化について根拠をもって考え、互いに交流し、深めていきます。説明文の読解にも、物語の構成を意識し、教材文の構成を自分の作文にも生かします。作文は下書きや推敲の時間をとり、文章に間違いや漢字で書ける部分がないか確認するようにします。



体育学習発表会では、学年のみんなで表現を合わせる楽しさを味わいました。

社会

学年の実態

区の様子や、私たちの暮らしに関わる仕事に関する社会的事象を比較・分類したり、関連付けたり、総合したりする学習に取り組んでいます。問題解決的な学習のプロセスを理解し、問題意識をもって主体的に学ぶ力を身に付けることが今後の課題です。

改善策

社会的事象に着目させる「見方」について指導し、資料から必要な情報を読み取り、適切に知識・技能の習得ができるようにします。

比較・分類、総合、関連付けといった「考え方」を働かせることができる問題を設定し、思考力・判断力・表現力等の育成を図ります。



算数

学年の実態

たし算やひき算の計算処理は多くの児童が習得できています。数を位ごとのまとまりとして算数的に捉えることや、長さや時刻と時間などの計測については、難しく感じる児童が多くいます。

改善策

授業では、日常の現象を算数的に読み取ることを授業の導入や終末で意識的にを行い、児童の生活と算数とをつなぎ、算数を学ぶ意味を感じさせていきます。

理科

学年の実態

生き物の観察や飼育、栽培などの直接経験を通じて、学ぶことの楽しさを感じ、人との関わりや自然に関心が高まっています。結果から何が考えられるか、何が言えるのかといった考察する力を伸ばすことが今後の課題です。

改善策

問題解決的な学習のプロセスを理解し、問題意識をもって主体的に学ぶ力を身に付けることができるように、対話の質を充実させます。生き物の観察や飼育、栽培などの直接経験の機会を充実させ、主体的に学ぶ力を更に伸ばします。



教科等横断的に、問題を自分で見付けたり、発想を広げて多様な考えをもったりする力を鍛えています。

言葉や絵、図表、数直線、式など、考えの表し方についても学んでいます。

体 育

昨年度改善プラン成果と課題

全 体

体力づくりに必要な機会を多く設定し、朝の時間や休み時間など、学校生活全体を通して体力向上につながる遊びや運動に親しむことができるようになりました。

※今年度はコロナウィルスの影響で、体カテストを自校で実施したため、全国や東京都との比較ができませんでした。

低学年

ルールのある遊びを取り入れることで、きまりを守り、友達と楽しく運動することができるようになりました。




中学年

自分なりに運動の工夫を考え、技能や思考面を自己・他者評価することで、全体の運動の技能が向上しました。

高学年

自己の課題を理解することで、運動に対する意識や取り組む姿勢が向上しました。

	児 童 の 様 子	改 善 の ポ イ ン ト
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力して取り組むことができます。 運動に対して進んで取り組む児童が多数います。 運動のイメージがなかなかもてず、体の動かし方が分からない児童がいます。 運動の仕方やルールが分からず、協力して運動ができない児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動を授業の中で計画的に取り入れ、基本的な体の動きを養います。 目指す動きを細分化し、段階を踏んで動きを体得できるようにしていきます。 ゲームを取り入れ、ルール守ること、協力するよさを実感できるようにします。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 友達の動きのよさに気づき、協力して取り組むことができます。 意欲をもって取り組むことができます。 運動の技能の差が大きいので、個に応じた指導の充実を図る必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動に対する興味・関心を高める工夫をします。 運動の「めあて」を提示し、身に付けさせたい運動の特性をつかませます。 作戦を立てるなど、チームで協力する時間を設けます。 場を工夫し、個人のめあてに沿った練習ができる指導の工夫をしていきます。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のために協力して作戦を立てたり、話し合いをしたりすることができます。 柔軟性・動きを持続する力が身に付いていない児童が多いです。 自分がどのような動きをしているかをイメージする力が弱い児童がいます。 自分の運動の力を見極め、課題を設定する力が身に付いていません。 	<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動を定期的に授業に組み込みます。 体力を高める運動を授業に組み込みます。1年間を通して取り組ませる。 映像や具体的な例を示し、視覚で認識させます。また、反復して動きを覚えさせます。 学習カードを使い、毎回の授業の課題設定をさせます。

	具 体 的 な 改 善 策	
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達段階に応じた様々な動きを取り入れた体ほぐしの運動を月ごとに工夫します。 体育の学習の時間の基本的な流れを、「今まで学んだ動きの確認（基本の動き）→手本の運動を見る→その時間で学ぶめあてを把握する→全体練習→めあてに向かい一人ひとりの力に応じた練習」の形で設け、低学年のうちに取り組むべき運動の習得を目指します。 友達の動きを見て学ぶ時間を生かしながら、励まし合い、みんなで上達していく意識を育て、協力する力を高めます。 子ども達が運動に取り組むことができる機会を多く提供し、いろいろな動きを体験できるようにします。 	
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 「ランニングカード」「短なわカード」など児童が1年を通して運動に興味・関心を高められるような活動を増やします。 グループ活動・教え合いを授業に取り入れ、子どもが意欲を持って取り組めるようにします。 学習カードを充実させ、運動のねらいを理解して授業に取り組むことができるようにします。 グループ活動・教え合いを通し、友達と仲良く協力して活動しようという態度を育てます。 	
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動を計画的に授業に取り入れ、自らの体力を知り、体力を向上させます。 <ol style="list-style-type: none"> 体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動。 力強い動き及び動きを持続する能力を高める運動を授業に組み込みます。 学習カードを活用し、自分の力を知り、自分の課題を設定し、解決するための力を養います。 <ol style="list-style-type: none"> 授業の振り返りを毎回の授業で行うことで、個人の状態や次の課題を把握させます。 課題を解決するために、場を自分で選んだり工夫することを決めたりする思考力を養います。 朝の時間や休み時間に、向上心を持ち、子ども自身が工夫して取り組んでいけるような運動の場を設置し、日常的に運動に親しみ、楽しみながら体力向上に励む子どもを育てます。 	




昨年度改善プラン成果と課題

低学年：音楽活動に興味・感心が高い児童が多く、歌唱やリズム打ちに意欲的に取り組む姿勢が見られました。

中学年：音楽活動に積極的に取り組む児童が多く、歌唱・器楽に対する意欲の向上が見られました。課題は、音符や楽譜にもっと親しみ、音楽づくりの活動に生かすことです。

高学年：合唱や器楽合奏等に積極的に取り組み、様々な学校行事で堂々と演奏を披露することができました。課題は、より豊かな演奏表現をめざして、楽譜を効果的に活用することです。

	児 童 の 様 子	改 善 の ポ イ ン ト
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 歌や楽器に興味をもち、意欲的に音楽活動に取り組もうとする児童が多く見られます。 拍の流れにのって歌ったり演奏したりする活動を通して、友達と合わせる力や、互いの歌声・楽器の音色を聴こうとする力が育っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習形態（ペアやグループ等）を工夫し、児童が楽しく授業に取り組めるようにします。 自然で力みのない声と正しい音程で歌えるよう繰り返し指導し、鍵盤ハーモニカの正しい運指やタンギングをしっかりと身に付けるよう一人一人の個別指導にあたります。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> きれいな声で元気に歌うことができます。 3年生は、打楽器や鍵盤楽器の他、今年度から始まったリコーダー演奏にも意欲的に取り組んでいます。 4年生は、柔らかな響きで歌ったり、スタッカートやスラーの表現を生かして、リコーダーで演奏したりすることができます。 楽曲に合った表現の工夫について、学習しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏を発表し、聴き合う機会を増やします。 楽器に親しむ中で、楽器の音色や音符の長さについて体験的に学ぶことができるよう指導します。 音域を広げ、自然で無理のない、響きのある声で歌えるよう発声指導します。 小さなつまずきを見逃さず、必要があれば、休み時間等に個別指導を行います。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動に進んで取り組む児童が多いです。 5年生は、豊かな声量で頭声発声に気を付けて歌うことができます。 6年生は、金管鼓笛演奏に関心が高く、熱心に取り組んでいます。 歌唱や器楽の技能に個人差がありますが、友達同士、教え合う姿、努力する姿が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> 和音の構成音を重ねて歌ったり、ハーモニーのよさを感じながら演奏したりできるよう、指導します。 歌唱や器楽におけるつまずきを把握し、発達段階や個に応じた指導を行います。 主体的に演奏に取り組み、高めあうことができるよう、読譜力を養います。

	具 体 的 な 改 善 策	
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす活動を取り入れ、リズムや拍感を身に付け、楽しみながら歌ったり演奏したりできるように指導します。 授業の中で様々な学習形態（ペア・グループ活動等）を設定します。 	
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーでは、児童が進んで取り組むことができるよう、平易な作品を多く扱います。運指や音色について、細かく机間指導します。 繰り返し練習を行い、演奏を互いに聴き合う機会を増やします。 ドラムサークルの活動を通して楽器に親しみ、色々なリズムを即興的につくったり聴いたり、重ねたり工夫したりできるようにし、音楽性と主体性を育みます。 既習の音符や音楽記号を用いて、簡単な楽譜を書く活動を取り入れます。 	
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、腹式呼吸を用いながら発声指導を行っていきます。高学年になると、児童によっては、高音が出しにくくなるので、頭声発声の他に胸声発声も取り入れる、オクターヴ下を歌う等、発達段階や個に応じた無理のない指導を行います。 日々の学習の中で、わらべ歌や外国の民謡を題材に、ハーモニーや強弱の変化をつけることの面白さを味わわせることができるよう、指導します。 器楽合奏において、色々な楽器の特徴や演奏方法を学び、友達と音やリズム、強弱の変化を合わせる学習をします。 合唱や器楽合奏への取り組みを通して、読譜力や表現力を育み、主体的に音楽活動に関わる素地を養います。 	




昨年度改善プラン成果と課題

低学年：日常的にはさみ、のり、絵の具セットなどの基本的な用具の使い方を指導し、造形活動への意欲・関心を高め、楽しみながら活動することができました。意欲を維持しながら、引き続き指導していきます。

中学年：材料、用具を選択できるように指導を工夫したことで、自分で取捨選択し、思考しながら造形活動に取り組めるようになりました。自他の良さに気付ける鑑賞活動をしたことで、作品のよさや面白さを見付けることができました。発想が思い浮かばず、つまずいてしまう児童もいるので、導入時に工夫が必要です。

高学年：今まで学んできたことをさらに深められるように表現方法や材料などに幅をもたせたことで、自分らしい表現を見付け、つくる喜びを感じ取ることができました。カッターや電動糸のこぎりの扱いに不安がある児童がいるので、引き続き指導していきます。

	児童の様子	改善のポイント
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲をもって楽しみながら活動しています。 ・題材に応じて、想像力豊かに造形表現することができます。 ・自分や友達の作品から面白さやよさを楽しんでいます。 ・まだ基本的な用具の扱いに慣れていない児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や季節に合わせた題材を設定し、児童の意欲をさらにもたせます。 ・児童がイメージをふくらませやすいように、多様な資料や材料を用意します。 ・図工の授業以外でも、日常的にはさみ、のりなどの基本的な用具の使い方を指導していきます。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲が高く、つくることや表すことを楽しんでいます。 ・友達の作品に関心をもって、自他の違いや発想の良さや面白さに気付きながら、鑑賞しています。 ・水彩絵の具など用具の使い方に課題がある児童がいます。 ・自ら考え、判断することが出来難い児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形への意欲を高められるように学習の導入を工夫します。 ・ワークシートを用いながら、作品を見たり、話し合ったりして多様な発想や表現、自他の良さに気付け、言葉で表現できる活動を行います。 ・用具を使う際にその都度、使い方を指導します。 ・意思決定の場を多くし、自ら思考できるようにします。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動に関心をもち、作品が完成するまで根気よく取り組むことができます。 ・客観的に自分の作品を見つめたり、作品の良さや違いを感じ取ったりしています。 ・一度つまずいてしまうと集中力が続かず、あきらめてしまう児童がいます。 ・自分の表現に自信がもてず既存のものに頼ってしまう児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童が特性を生かした活動ができるようにするために、学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにします。 ・ワークシート等を用いながら、鑑賞活動を行い、自分の考えをもたせるようにします。 ・つまづくところを指導し、丁寧に声掛けをしながら、作品を完成させることを目指します。 ・友達と相互鑑賞することで自分の表現に自信をもたせるようにします。

	具体的な改善策	
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> ・紙、粘土、はさみ、のりなど基本の材料や用具を、年間で通じて楽しく、正しく、安全に使用できるように計画を作成します。 ・見たり触ったりして感じたことをもとに発想を広げられるような造形遊びの活動を設定します。 ・活動の参考になるような写真や資料などを豊富に用意し、意欲を高めます。 ・友達の作品のよいところを見付け、伝え合う活動を通して、自分の作品のよさや面白さに気付く鑑賞の時間を設定します。 ・活動を段階的にもうけることで、児童が無理なく活動できるようにします。 	
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じて、年間計画を立て、導入では、児童が楽しいと感じたり、面白いと思ったりするような工夫をして、造形活動に意欲がもてるようにします。 ・ワークシートを用いて、友達の作品から、よさや面白さを造形的な視点をもって、鑑賞できるようにし、自分の言葉で伝えたり、発表したりできるようにします。 ・水彩絵の具や基本的な用具の使い方をその都度指導し、板書や図を掲示しながら正しく扱えるようにします。 ・手順を細かく黒板に書き、説明することで、児童が見通しをもってできるようにしたり、たくさんの材料の中から自分の作品に必要なものを選択させたりするなど、自ら考え、活動できるようにします。 	
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで経験した材料や用具を再度扱うことで、材料の工夫や用具の取り扱い方に慣れ、つくりたいことに合わせて、取捨選択できるようにします。 ・見る視点を書いたワークシートを記入させ、自他の違いや工夫を見付け、尊重することで、鑑賞の能力を育みます。 ・作例をたくさん見せたり、活動途中で周りの児童の作品を鑑賞させたりしながら、作品の完成イメージをもたせ、つまづいているときには児童とともに最善策を考えながら、児童が進んで造形活動ができるようにします。 ・身近な作家の作品の鑑賞活動を取り入れながら自分の表現に広がりをもたせたり、友達との鑑賞活動から自分の作品に対して自信がもてたりするようにします。 	

家庭

昨年度改善プラン成果と課題

児童が家庭科で学んだことを、自分の「仕事」として家庭の中で生かして、継続して実践できるようになってきました。さらに、家族の中の自分の存在や役割について意識を高め、自ら役立とうと行動する児童が増えました。家庭の協力を得ながら、児童一人ひとりが家庭実践を繰り返した成果があらわれてきました。



	児童の様子	改善のポイント
5年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の仕事に興味を持ち、意欲的に学習や実習に取り組む児童が多くいます。 家庭での調理経験がある児童は比較的多いですが、裁縫の経験がある児童は少なく、家庭科で初めて針を持つという児童が半数以上います。 家庭にIH調理機が広く普及してきており、ガスコンロを使えない児童が増加傾向にあります。 話し合い活動の際、自分の考えをすすんで発表できる児童が増えつつあります。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し練習させることで技能を着実に身につけさせ、全員が自信をもって実習に取り組めるようにします。 用具の正しい名前と安全な使い方を繰り返し指導します。必要に応じて動画や画像を用いて、児童の理解を促します。実物投影機も活用し、実習の手順や手元の動きが全員に見えるようにします。 全員にガスコンロの正しい使い方を確実に身に付けさせ、換気等を含めた火気を取り扱う際の注意点も指導します。 相手意識をもった言語活動を充実させていきます。また、これまでの経験や情報で予想できることはないかを考えさせていきます。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 計画を大切に、自分なりの工夫を加えて実習に臨む児童が増えてきました。自分の工夫を加え取り組んでいます。 自分の考えを発言する際、これまでの学習や家庭での経験を踏まえて説明できる児童が増えました。 家庭科で学んだことを生かして、毎日や週1回など、定期的な自分の「仕事」として取り組む児童が増えました。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、見通しをもって計画的に取り組むことを重視して指導します。内容によって様々な活動を行います。 児童の学習や生活経験を大切に、様々な学びを結び付けながら、要点や理由を明確にして説明する表現力を育てます。 今後も家庭と連携しながら、児童の家族の一員としての役割意識を高め、仕事として家事に取り組む力を育てます。

	具体的な改善策
5年	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の調理実習は実施できませんが、安全で衛生的な調理の仕方を指導します。実習前の調理計画の立て方を段階的に指導し、食材や調理法に合った手順や用具を考えられるようにします。 裁縫実習は、製作過程が段階的に理解できる教材・教具を取り入れます。また、家庭で長く活用できる作品を製作し、児童が作品に愛着をもって、完成に向けて意欲と技術を高めようとする学習にします。 消費・環境の学習「生活を支えるお金と物」や、持ち物の片付けの学習「整理・整とんで快適に」を通して、児童が環境や物や金銭について見つめ直す学習をします。特に、自分の持ち物への所有感や愛着、家族への感謝の気持ちを高めます。 一度学習した裁縫の技能を、違う単元や題材などで繰り返し学べるよう、2学年間を見通した学習支援をします。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 6年生になり初めての学習は、「わたしの生活時間」です。まず、それぞれの生活時間を書く出し、表にまとめることで、見直しをします。次に家族とのふれ合いを増やす工夫の一つとして、家での朝食づくりへの実践へと進めていきます。 裁縫実習では、マスク・ペットボトルホルダー・コースター・雑巾・エプロンづくりを通して、様々な素材や道具を使いこなす学習に取り組ませます。 中学校との内容のつながりを意識します。継続して学習するもの（例えば、調理用具の扱い方やミシンの扱い方）は、小学校段階で確実に習得するものを明示し、意図的に練習ができる教材を選定します。



特別活動の取り組みから

(1) たてわり班活動（異学年交流）を通して

上級生は、下級生に対して優しく接したり、一緒に行う遊びを計画したりする中で、上級生としての自覚や、学校をよりよくしようという意識が芽生えます。自分たちの計画で下級生たちが楽しそうにしたり、下級生から感謝の気持ちを伝えられたりすることで、さらにその意を強め、自己肯定感を高めています。下級生は、そのような上級生たちの姿に憧れをもち「いつかは、先輩たちのように学校を引っ張っていきたい」と、意欲を高めています。また、自分たちにできることを一生懸命考え、取り組むようになり、経験も自己肯定感を高めることにつながっていくと考えています。今年度はコロナウィルスの状況を踏まえ、2学期から実施を考えています。



① なかよしタイム（2学期から少しずつ実施していく予定です。）

今年度は、兄弟学年で休み時間に遊べるよう計画しています。定期的に兄弟学年が集合して関わることで、より早くお互いの顔を覚え、普段から上級生や下級生を意識するように取り組んでいます。

② 屋のたてわり班活動（今年度は実施しません。）

兄弟学年で、「ふれあい活動（上級生による本の読み聞かせや、折り紙教室など）」
「ふれあい清掃（兄弟学年で校内の清掃）」の2つに分かれて活動しています。
なかよしタイムよりも、上級生が事前に準備・計画をすることが多く、活動後は満足そうな様子が見られました。



(2) 委員会活動を通して

代表委員会による朝のあいさつ運動やユニセフ募金など、各委員会が学校生活をより豊かに楽しいものにするよう、話し合いに取り組んでいます。お知らせ集会では、日ごろの活動などを全校に紹介しました。



(3) クラブ活動を通して

自分たちの好きなことを、同じことが好きな友達同士で集まり、行うことで、その活動に対する自信をもつことができます。

(4) 学級活動を通して

学級の友達と話し合ったり、話し合っただけの決めたことを実践したりすることを通して、自治的・主体的な態度を育てています。

(5) こどもまつりを通して（平成31年度）

4月から学んだことを振り返りながら、学年でテーマを決め、各学級の学級会で出店の内容を相談して決めました。各学級が工夫を凝らしたお店を出店しました。この活動の中で、協力しながらお店の準備をしたり、店番をしたりすることで、学級や学年の人間関係をより豊かにすることや、異学年と交流しながらお互いの努力を認め合うことができました。また、学校生活をより楽しく豊かなものにしようという態度も育むことができました。

